

議会たより

No.93

平成23年10月27日

松崎



心を一つに（松崎小学校運動会 9月23日）

第3回定例会（9月13日～9月20日）

- ・平成22年度決算審議…………… 2
- ・平成23年度補正予算審議…………… 5
- ・町政を問う 一般質問に5議員…………… 6
- ・議員研修・視察報告…………… 11

第3回定例会

平成22年度 一般会計決算審議

歳入総額41億2千412万円、歳出総額39億8千58万2千円、繰越明許総額1千245万7千円で1億3千108万1千円の黒字決算となった。(賛成全員=認定)

歳入

問 町税未納者への対応状況は。
窓口税務課長 督促状、催告書の送付、電話催告、夜間訪問徴収と併せ、預貯金、生命保険などの調査も行っている。国保税については健康福祉課と合同で取り組んでいる。
問 町税未納分に対する静岡地方税滞納整理機構への委託内容は。
窓口税務課長 機構への

問 町税未納者への対応状況は。
窓口税務課長 督促状、催告書の送付、電話催告、夜間訪問徴収と併せ、預貯金、生命保険などの調査も行っている。国保税については健康福祉課と合同で取り組んでいる。
問 町税未納分に対する静岡地方税滞納整理機構への委託内容は。
窓口税務課長 機構への

委託は市町ごとに割り当て数が決まっております。松崎町は10件となっております。徴収を委託した金額は総額で907万9千円。機構で直接徴収したのが635万9千円。納付約束190万円で総額825万9千円、委託分の徴収率は91%となっております。
問 整理機構へ委託する際の基準はあるのか。
窓口税務課長 明確な基準は無いが、分納計画を出さないなど面談の状況により決定している。
問 徴収の部分は、町の活性化などにより改善の余地はないか。
総務課長 固定資産税が基幹をなすが、不動産評価も下がっており、新築家屋も少なく厳しい状況である。
問 軽自動車税の過年度未収分の内容は。
窓口税務課長 未納者は車検時には納付しているが、課税をしている町外の方で車が無いなどのケースがある。追跡調査など



税の公平性確保に向けて

歳出

問 職員数の推移、適正な職員数は。
総務課長 平成17年から平成21年までの5年間で行政改革大綱を作った職員管理を行った。平成17年当時108人いた職員は現在90人となっている。権限委譲で国・県の仕事が増えるなど社会情勢の変化により定員管理の見直しも必要と考えている。適正な職員数については、類似団体というのがあり、1千人当たりの職員数が少ない所で6.3人、多い所で23人、標準で10人、松崎町は9・83人となっている。
問 自主財源に比べて人件費の比率が大きい。
総務課長 人件費、扶助費、公債費は義務的経費と言われ固定経費でこれが増えると財政にゆと

りが無くなる。工夫が出来るのが人件費。職員給については人事院勧告により国、県にならない3年ぐらい下がっている。
問 成人病検診の受診率が下がっているようにだがその対策は。
健康福祉課長 平成22年度の検診受診率は肺がん56・2%、大腸がん52・5%、胃がん46・3%、乳がん28・2%、子宮頸がん28・1%で前年対比受診率は下がっており大きな課題となっている。日程を配慮したり、健康に対する啓発活動が続けていきたい。
問 有害獣等対策事業の状況は。
産業建設課長 電気柵などの補助申請は38件(153万4千円)の申し込みがあった。捕獲については駆除狩りなどによりイノシシ293頭、シカ256頭、サル43頭の実績があった。また、町内4会場で鳥獣被害防止講習会を開催している。

問 借地が43施設で24件あるがこれらの買収の考えは。
総務課長 借地については、地主との関係があり、借用期間を設け更新している。契約更新の際に買収の意志を示すようにしているが、現在の状況となっている。
問 道路維持費の工事請負費に32万円の不用額があるが内容は。
産業建設課長 いくつかの工事の入札差金が必要な要因。不用額を出さないよう取り組んで行きたい。
問 新港湾へのカーフェリー誘致について見通しはどうか。
町長 状況は厳しいものがあるが、希望を捨てた訳ではない。鈴与(株)にも話しをしている。
問 外国人誘客対策事業の内容と成果は。
企画観光課長 観光協会への委託事業で英語・中国語・韓国語など五カ国語の観光パンフレットを



グリーンツーリズム事業の成果は(岩地海岸)

作製した。標識のローマ字表記も進めた。震災の影響もあり目に見えた成果はまだないが、今後は受け入れ態勢の構築に向け研修会などを開いていきたい。
問 グリーンツーリズム事業の成果は。
町長 子ども農山漁村交流プロジェクトの足がかりを付けることができた。今後各学校を訪問し誘致活動を始めるほか、モニターツアーに向けた準備も進めている。
問 長八美術館など町営観光施設の入館者数が落ち込んでいるがその対策は。
企画観光課長 各施設については振興公社で営業努力をしており、町も公社を交え随時意見交換をしている。大手旅行会社への営業活動も続けており、誘客につながるものは積極的に取り入れていきたい。

問 主要施策に対する効果の検証は。
総務課長 総合計画の実施計画を着実に推進している。9割近い率で計画は達成していると検証される。

子ども農山漁村交流プロジェクトとは？

農林水産省、文部科学省、総務省が連携して、子どもたちの学ぶ意欲や自立心、思いやりの心などを育み、成長を支える教育活動として、小学校における農山漁村での長期宿泊体験活動を推進するもの。将来的に毎年、全国2万3千校で農山漁村における宿泊体験活動を目指している。

その他の特別会計

後期高齢者医療、介護保険、岩地・石部・雲見集落排水事業決算は、いずれも賛成全員で認定された。

国民健康保険特別会計

健診受診率向上への取り組みは

歳入総額12億2千198万2千円、歳出総額11億3千771万2千円で収支差引額8千427万円の黒字決算となった。(賛成全員=認定)

問 一般家庭の平均的な税額ほどの程度か。
健康福祉課長 平成22年度の1世帯当たり保険税は14万9千419円となっている。
問 保険給付費が下がった理由は。
健康福祉課長 傾向として通院が多く減っていることが要因ではないかと考えられる。通院の方が医療に係る割合が高くなる。

問 特定健診の結果が2カ月位かかるが、早めることはできないか。
健康福祉課長 特定健診は県の国保連合会に委託している。医師会が検診データを連合会に送り、その判定処理に時間を要している。過去にも改善を申し入れた経緯もあるが、事務処理上、難しいようである。ガン検診は別処理で1週間程度で結果はお知らせしている。
問 滞納者への納付指導窓口税務課長 納期後に



特定健診結果説明会（環境改善センター）

督促状を出し、納付指導をしている。滞納整理機構へも委託しており、22年度では滞納分納付額の17%、約200万円が機構から入っている。健康福祉課とも連携し、短期保険証(有効期限が短いもの)の交付などでも対応している。
問 疾患割合(医療費に占める疾病ごとの割合)で精神及び行動障害の割合が高いがその対応は。

健康福祉課長 精神については相談が増えているが対応が難しい分野。賀茂保健所松崎支援室と合同で対応している。
問 健診受診率を上げるための取り組みと他市町の状況は。
健康福祉課長 受診日に土・日を入れたり、受診時間も配慮し、送迎バスの運行も行っている。賀茂1市5町では3番目の受診率となっている。

一般会計補正予算第2号

歳入歳出に5億3千48万8千円を追加し、総額を39億4千285万7千円とした。(賛成全員=可決)

補正予算の主なものは、「町営宿泊施設伊豆まつぎ荘」への貸付金3億8千700万円、津波避難ビルになっている環境改善センター、松崎小・松崎中学校屋上への手すり設置工事、松崎地区浸水対策工事、防災ラジオ購入など災害対策関連経費約7千700万円など。
問 伊豆まつぎ荘会計へ一般財源を投入することについてどうか。
総務課長 貸付をしても実績などで予測すると欠

損金が出ることは見えている。その時にはまた議論することになる。経営が破たんした時の債務については町が面倒を見られないと考える。
問 伊豆まつぎ荘黒字化への方策は。
町長 グリーンツーリズムの総本山としたいが、地道にやってみて行くしかないと思っている。
企画観光課長 ネット予約が増えてきている中で、その利用が従前の4割から2割に落ち込んでいる。事務所体制を見直しながら普及に努めていきたい。
近隣各県の共済組合にも足を運んだり、自動車学校にも営業をかけている。新規顧客の確保に向け取り組んでいきたい。
問 伊豆まつぎ荘会計へ貸付をした場合、起債に支障はないか。
総務課長 県にも相談している。個別事業の借入は多くない状況であり、公共整備基金も有効に活用したい。



防災ラジオ（1台1,500円で販売）

問 浸水対策事業2千万円はどんな効果を期待しているか。
産業建設課長 被害軽減の効果が早期に発揮できる個所から取り組んでいきたい。側溝の改良や浸水箇所から直接排水する内容の工事などを予定している。
問 防災ラジオ購入の際の低所得者への対応は。
総務課長 低所得者への対応は考えていないが、一部難聴地域の簡易アンテナについては町負担としたい。

国民健康保険特別会計補正予算

補正予算(第1号)は、総額にそれぞれ4千37万5千円を追加し、12億3千232万5千円とした。(賛成全員=可決)

水道事業会計補正予算

水道の基本計画を検討するにあたり、新井戸の地下電磁探査(八木山・石部)費用237万円を増額した。(賛成全員=可決)

町営宿泊施設「伊豆まつぎ荘」事業会計補正予算

一般会計から借入を行い、企業債の一部を繰上げ償還するもの。歳入歳出に3億8千700万円を追加した。(賛成全員=可決)

条例・契約案件等

◎松崎町特別職の職員で非常勤の者の報酬及び費用弁償の一部を改正する条例
那賀川水系河口周辺治水対策委員会再開に伴い、専門的知識を有する学識経験者を構成メンバーに加えるために報酬額を改正するもの。委員会に及ぼす影響が大きいため、アドバイザ的な立場から専門家の意見を反映させるべきとした。(賛成3・反対6=可決)

◎消防ポンプ付積載車売買契約
(934万5千円で締結)
第1分団第1小隊(松崎)に配備される。(賛成全員=可決)

◎防災ラジオ売買契約
(1千455万3千円で締結)
町の放送が受信できる防災ラジオ1千800台を購入し希望者に販売する。(賛成全員=可決)

町政を問う

少子高齢化の対応策は

労働流動人口の増加で



藤井 要 議員

質問

年々人口が減少し、25年後の町人口は4千900人で、65歳以上が50%を超える予想され、住民サービスが低下が懸念されることが。

町長

人口減少による財政への影響は、個人町民税の減収、消費の低迷による地域経済への影響が心配される。町民は他の市町と同じサービスを受けると同じサービスを受ける権利があり、一般会計の決算規模がおおむね35億円程度で推移しているの

込みをしている。

質問

生活利便施設への移動が困難な高齢者世帯の増加が予測されるが、福祉と災害対策は。

町長

高齢者の移動手段の確保は厳しく日常の買い物や通院などに苦労していると思う。町で福祉タクシー券や寿乗車券を交付し外出が少しでも容易になるように努めている。避難対策は日ごろから環境整備に努め、今回の補正予算に要介護者台帳の整備費を計上した。

町を癒しの場所に

松崎は自然の宝庫

質問

都市圏に近い松崎町を癒しの場所として整備し、学校や病院の誘致、中国などからの誘客の考えは。

町長

松崎は豊かな自然に恵まれ、国立公園や景勝地として、また、長九郎山山頂は学術参考保護林の指定を受けるなど、自然に富んだ癒しの場となっている。これらの保守整備を行い利用が図られれば素晴らしい場所になる。

町長

昨年、耕作放棄地解消対策として、田舎暮らし応援ツアーを行い1組の方が定住した経過もあり継続して実施する。病院の件は共立湊病院建設が進められており、この状況を見守りたい。中国などからの観光誘客は多国語のパンフレットを作成し、迎える側の研修も計画している。

農作物への被害対策は

防止策の経費助成で



佐藤 作行 議員

質問

松崎町における農作物被害状況と稲作・芋類・桜葉などの被害対策は。

町長

近年、有害鳥獣による農作物への被害は、年々拡大している。当町では、約1千万円の被害が報告されている。イノシシ・シカ・サルによるものが全体の約9割を占め、多くの被害を受けている。農地の被害防止対策として自ら電気

質問

柵やワイヤーメッシュ柵などの設置を行う経費に対し助成を行っている。

町長

捕獲対策は、捕獲機材や追い払い機材については、今後、希望者に対し貸し出しを行っていきたくと考えている。また、9月補正予算において狩猟免許の新規取得者に対する取得費用助成事業を計上している。

高齢者見守り協定は

多面的な見守りで

質問

「高齢者見守り協定」が結ばれたことは素晴らしいことだが、町自体の専門サービスの考えは。

町長

当町では、高齢者の見守り体制を構築して行くため、郵便事業株式会社、ヤマト運輸との間に「見守り協定」を締結することができた。今後は行政が係わり、地域が連携する多面的な見守りシステムを作っていきたいと思う。

質問

各地区・福祉協議会主催のサロンが開催されているが、これを充実・拡大の考えはあるか。

町長

高齢者の地区サロンは、地域の高齢者の引きこもり防止と仲間作りを目的に、松崎・中川・岩科地区で開催されているが、



さんさん松崎輪投げ大会（環境改善センター）

水門・避難塔建設は

水門は有効である

質問

東日本大震災を目的に、那賀川河口堰水門に対する町民の意見も以前とは変わったと思うが、水門・避難塔の建設を推進するのか、しないのか、町長は強いリーダーシップを発揮すべきではないか。

町長

想定される東海地震から生命財産を守る手段として、水門は有効であると考えられる。那賀川水系河口周辺治水対策委員会で議論を深め意見を集約したい。

避難塔については、必要性を否定するものではないが、場所や規模の問題などで簡単には結論が出せる状況にない。

釣り公園化は

未定である

質問

松崎新港の釣り公園化へのタイムスケジュールは。

町長

現在のところ見通しは立っていない。



松崎地区サロン（福祉センター）

夢あるビジョンを示せ

誇り愛情を持てる町に



高柳 孝博 議員

【質問】

第4次総合計画では活力ある産業づくりとか町が上向きになる計画があったと考えるが、実感として必ずしもそうなっていない。少子高齢化対策をどう進めるのか、企業誘致の困難など、情勢は厳しいが条件が悪いからこそ改善ではなく改革しなければいけない、変えなければいけない。誘客の問題、6次産業を作るという意味で観光だけではなく農林水産業や、第4

次総合計画をきっちり反省し、第5次総合計画の今後10年間、松崎をどのようにもっていくのか。情勢が厳しいから下がっていくのではなく果敢に立ち向かっていく、そういうビジョンを示す必要があると考えるが。

町長

平成の花とロマンの里づくりは松崎らしい田舎づくり、人づくりとして考えている。人口減少に歯止めをかける必要性に迫られていると感じてい

る。松崎町は観光産業を源動力とするしかなく、松崎の観光は自然・文化・伝統・人間らしさを活かしていくしかない。グリーンツーリズムでは、松崎全町まるごとふる里自然体験学校と考えている。農業体験・林業体験・漁業体験と、先生は町中にたくさんいる。体験メニューを増やすことで人とお金が動くシステムを作りたい。

世代間格差の考慮を

松崎らしいやり方で

【質問】

サービスを受けるために支払う対価に対してサービスをどれだけ受けられるか、世代間の格差も考慮する必要があるのではないか。

町長

人口が逆三角形になっており、国や県の動向を注意しながら松崎らしいやり方でやって行きたい。

独居人のサポートを

地域コミュニティで

【質問】

町内で自ら命を絶つ方もあり、増大する独居の人を孤独にしないためにも共生型ネット社会が有効と考える。各地域に情報端末を設置したコミュニティポイントを設置し、NPOなどと連携し情報

町長

個人情報の問題があるが、専門家の配置を検討したい。行政だけではなく、各地域でやっていただくことにより防災にも役立つと考える。町づくり全体計画の一つとして考えたい。



石部棚田収穫祭

浸水問題解決が大前提

順次整備し不安解消



鈴木 源一郎 議員

【質問】

町長は8月8日の議会全員協議会で、那賀川水系河口周辺治水対策委員会の始動を明言した。大震災以降、国が防潮堤の設置規模をいまだに示していないにもかかわらず、町が今なぜ休止している委員会を始動させるのか。町長

【質問】

河口水門を建設する問題は数年前に河口付近の浸水地域の対策が示されず休止となったが、その後、住民に納得のいく説明はなされていない。町長

浸水被害は満潮時に水がはけなくなることが大きな要因で対策は難しい。平成22年度の議会全員協議会でも計画概要を説明し、去る9月8日には浸水対策工事として一部は発注した。全体の事業には相当の年数と経費を要

多数決で押切るな

津波対策水門は必要

【質問】

浸水戸数は全町戸数からみれば限られているが、それを多数決で押し切ることはやってはならない、というのが前回の教訓であり再始動の大前提ではないか。町長

5月21日の津波訓練後に実施したアンケートでも、67%が水門建設に賛成であり、対策委員会を立上げ協議を再開させた。町長

【質問】

過去に水門が問題になったときも、治水対策委員会の結論は結局両論併記であった。世間は賛成の声が多くても数で押切るべきではない、ということ委員会は構成さ

れた。この大前提を再認識した上でスタートさせる必要がある。町長

私は数で押切ることは考えていない。大震災をみて、住民がどう考えているのか聞いてみたい。町長

【質問】

議会の被災地視察でも、大津波に対しては施設を

造つても無力で、結局は場所や通路を整備して高い所に逃げる以外には手がない、というのが私の実感だった。町長



河口治水対策は

津波対策の取り組みは

重要な責務万全を期す



福本 栄一郎 議員

質問 町長は東日本大震災の現地視察を行ったが、被災地を見てどのように思ったか。

町長

甚大な津波被害の状況に驚がくし、総合的な対応・対策を原点に返って見直す必要について再認識した。

質問 津波により、想定される浸水区域に居住する町民の安心・安全の重要度・満足度は。

町長

住民の皆さまの生命財産をお守りすることは、町長に課された重要な責務であり、その対策に万全を期す覚悟は常に持ち続けている。

避難設備の建設は

必要性を認識する

質問 津波避難路の整備と、避難ビル・避難タワーなどの建設促進の考えは。

町長

避難路整備については、今回の補正予算に計上した。避難タワーなどの建設は必要性を否定しないが、建設場所や規模の問題などで簡単に結論を出せる状況ではないと認識している。

質問 被災した場合、心のケアにどう取り組むのか。

町長

保健師が中心となり、避難場所などを巡回して相談や指導を行う。専門的な技術・医療支援が必要になった場合は、県を通じ「心のケアチーム」の派遣を要請する。

質問

学校教育における日頃の地震・津波対策の取り組みは。

町長

幼稚園、小・中学校では年数回の定期訓練を実施し、防災意識の高揚に努めている。松崎幼稚園、小・中学校の避難は屋上へと変更した。

水門建設の方向性

意見の集約で判断

質問

那賀川河口の水門建設の方向性と町民の考えは。

町長

水門は津波から町民の生命・財産を守る有効な手段の一つであると考え。対策委員会で議論していただき、皆さまの意見を集約した上で判断していく。

質問

津波防災の日（11月5日）の取り組みは。

町長

具体的な取り組みはまだ決めていないが、「津波対策推進法」の趣旨に沿って実施していきたい。

質問

松崎町第5次総合計画を策定する中で、地震・津波対策の取り組みは。

町長

自主防災組織の要望を聞いて計画に反映する。



津波避難訓練で高台に避難（江奈2地区）

議員研修・視察報告

静岡県市町議員研修会（8月9日） 講演「ニュースの裏を読む」

大阪総合研究所代表 辛坊 治郎氏

去る8月9日、県町村会議会議長会と県市議会議長会が合同で議員研修会「グランシップ」において開催し、県内の議員約750名が参加した。

今年度は「ニュースの裏を読む」と題して、大阪総合研究所代表・芦屋 大学客員教授、日曜日の午後には放送されている「たかじんのそこまで言うって委員会」の司会を務めている辛坊治郎氏を招き講演が行なわれた。

内容は、報道に関わってきた経験をもとに、言葉の怖さやニュースなどに対する注意点、議員としての心構えなどを中心に話された。

話の中で心に残ったのは、「ニュースに書かれている内容を信用しては



講師の辛坊治郎氏

いけない。昔は人が話したことを調査確認してから記事にしていたが、今は、確認をしないでニュースにしてしまうことがある。マスコミを信用しないほうがよい。」と言ったことだった。

市町議員は、冗談を織り交ぜながら実例を挙げる話にすいこまれ、熱心に耳を傾けていた。

（副議長）

常任委員会視察（8月22～24日）

東日本大震災被災地視察

8月22～24日・1泊2日の日程で、東日本大震災被災地である岩手県を視察した。

岩手県は四国4県ほどの面積があり、美しい海や山・入江が北へと続き、豊かな海の資源がある所である。しかし、今回の津波により、それらの資源が一瞬にして破壊された。

被災から5カ月がたち、復興も進んでいるが、海岸付近の街並みは見渡す限り破壊されており、所ガレキが山積みされていた。海岸にあった防潮堤は津波を止められず、無力だったことを物語っていた。釜石港の岸壁には5千トンもあるだろうが巨大なタンカーが陸に上がってしまい、解体もされないまま無残な姿で



岩手県宮古市田老地区防潮堤

横たわっており、津波の凄まじさをまざまざと示していた。

宮古市田老地区の防潮堤は高さ10m、延長2.4kmあり、「万里の長城」と呼ばれていた。しかし、原型は留めていたが、巨

大津波はこの大防潮堤を輕輕と乗り越え、町を破壊した。この防潮堤は観光名所だったそうだが、防潮堤の上に建つ街路灯のポールは津波によって全てへし折られており、津波の威力をまざまざと見せ付けていた。

今回の視察は今後の町の防災を考えるうえで、大変参考になった。

（常任委員長）

議会のうごき

7月

- 7日 広報編集委員会
- 15日 広報編集委員会
- 21日 議会だより92号発刊
- 27日 賀茂郡町議会議長会

8月

- 8日 議会全員協議会
- 9日 静岡県市町議員研修会
- 22～24日 常任委員会視察
- 26日 共立湊病院組合議会全員協議会
- 31日 共立湊病院組合議会

9月

- 7日 議会運営委員会
広報編集委員会
- 9日 議会運営委員会
議員会勉強会
- 13・14・15・20日 第3回定例会
- 15日 議会運営委員会
- 16日 静岡県町村議会議長会総会
- 20日 議会運営委員会

浜岡原発の永久停止・廃炉を求める意見書採択

松崎町議会は浜岡原発の永久停止・廃炉を求める国に対する意見書を賛成多数で採択しました。

松崎町は、浜岡原発から60km程度しか離れておらず、ここでの惨事は、町民の生業や生活を壊し、生命の危険をも生じかねない深刻な影響を受けることとなります。意見書では、浜岡原発

は「永久停止・廃炉」こそが最良の選択であるとし、日本の電力については、原発への依存はやめて、段階的に自然エネルギー活用への大転換を求め、段階的に自然エネルギー活用への大転換を求めるとなっています。

また、県知事宛ての意見書では、県民の総意として安心が確認されるまで浜岡原発の安易な再開は認めないことについても求めました。

質疑時間は何分？

一般質問の質疑時間は原則として説明員の答弁を含めて50分(延長5分)までと決められています。議場には残り時間を示す計時盤が設置されており、質問者は持ち時間を有効に活用し当局の答弁を求めます。

発言する際には挙手して「議長」と呼び、議長の許可を求めることも定められています。



海鳴り

台風6号により順延となっていた東日本被災地の視察を自己負担(6万円)にもかかわらず、全議員の参加を得て実施した。

静岡県の災害支援区域が岩手県ということから、県支援本部を訪問した。我が県市町からの第22次派遣隊職員24名は、各班に分かれ大槌町及び山田町の支援にあたった。

県支援本部訪問後、釜石市、大槌町、山田町、宮古市と順次視察した。町が消え原型の無い凄まじい現実と言葉も無く、天を仰ぎ無心に祈るばかりであった。防災・減災に対する対応は、行政として当然の責務である。住民各自の「高台へ逃げるが勝ち」を基本とした日頃の心構えが我が身を救うと痛感した。招かざる客、天災がまずは来ない事を願うばかりである。

(議長)

編集委員

土屋 清武
藤井 要
福本 栄一郎
佐藤 作行
稲葉 昭宏

編集委員長

関 唯彦

発行責任者

議長 斉藤 重